



## ごあいさつ

理事長 藤井 正芳  
(真宗大谷派名古屋別院輪番)

学校法人尾張学園は、2017年に創立190周年を迎えることが出来ました。これもひとえに、学校関係者の皆様、同窓生の皆様、地域の方々、及びあらゆる有縁の方々のご協力があってのことと深く感謝申し上げます。

つきましては、記念行事の一環として創立190周年記念のパンフレットを作成することとなりました。この創立190周年記念パンフレットの願いは、「190年の感謝を、<sup>みらい</sup>200年へつなぐ」をテーマとし、尾張学園がこれまで190年の長きにわたって地域・人・歴史によって育まれて現代に存在していることへの感謝です。また、創立200周年へ向けて、建学の精神である宗祖 親鸞聖人のみ教えに基づき、「一人ひとりのいのちを大切にし、真実に生きることのできる人間を育てる」ことの誓言であります。

本学園創立からの歴史を振り返ると、始まりは文政10年(1827年)、真宗大谷派名古屋別院境内の一隅に、青木楽聞氏によって一棟の長屋が寄進されたところからでした。名古屋別院はこれを閲蔵長屋と呼び、経蔵に在る仏典を広く僧俗の閲覧に供し、また経典の講釈を聴聞する場としました。以来、尾張学園は190年の歴史の中で繰り返し校名変遷を経たのちに、現在の名古屋大谷高等学校と、豊田大谷高等学校の2校に至りました。今後は、これまでの190年の歴史を大切にしつつ、これからの方々へ向けて一層の発展と飛躍を期して、関係者一同が心を新たに取り組んでいきます。

なお、このたびの周年行事をとおして、本学園教育を担われた方々へ敬意を表し、本学園が創り出した伝統・文化・風土を振り返り、これからの方々へあゆみを確固たるものにする機会としたいと思います。

最後になりましたが、地域に支えられ、地域と共に生きる学園として、これまでのよき伝統を踏襲しつつ、これからの方々へ向けて一層の発展と飛躍を期して、関係者一同が心を新たに取り組んでいきます。今後とも皆様のご指導・ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

合掌



## ごあいさつ

名古屋大谷高等学校  
校長 梶浦 伸祐

名古屋大谷高校の濫觴を鑑みるに、学校法人尾張学園、創立190年の長い年月は、本学の歴史であるとともに、真宗大谷派名古屋別院の教学の足跡でもあると述べても過言ではないと思います。

幾多の先人の皆様によって受け継がれた親鸞聖人のみ教えに基づく建学の精神を、いよいよ顕現化し、「自己とはなんぞや」と自らを問い合わせ、次期指導要領に資する、主体性・判断力・思考力・表現力などを身につけ、世の中の群賊悪獸に対峙し、真実に生きることのできる生徒の育成に邁進することこそが、本学のあるべき姿だと考えております。そのためにも、学内外を問わず聞法の場は欠くことができない事であると考えております。本学に学ぶ生徒やその保護者、教職員にも一層の聞法のご縁をいただき、たゆまない努力を重ねていく思いを新たにしています。そして、次の200年に引き継ぐという重大な願いに応えられる本学へと、確実な歩みを進めてまいりたいと思います。

今後とも、親鸞聖人のみ教えを機縁とする皆様方のなお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



## ごあいさつ

豊田大谷高等学校  
校長 加藤 了介

本校は建学の精神に基づき、校訓を「命尊し」と定め、「自らの命の尊さに目覚め、他のすべての命とともに、真実の生き方を追求実現していく人づくり」を目指しています。

学校法人尾張学園創立190周年の歴史と伝統を受け継ぎ、次世代の育成に向け、次の4点を重点にして学校づくりを進めています。

- ・地域に信頼され、期待される学校
- ・在校生の満足度を高める学校
- ・社会人としての資質を育成できる学校
- ・生徒を育てる教職員の力量を向上できる学校

また、普通科でありながらも、特色あるコースを設け、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、多様な選択に応え、将来の社会人として力を発揮できる進路実現に努めています。

開校30余年の歴史ではありますが、卒業生のみなさんは、各界で活躍されています。今後も豊田大谷ならではの魅力ある学校づくりに取り組んでいきます。そして、地域の信頼を得て、地域になくてはならない学校、『あいさつ、返事、少しのがまん』をモットーに人づくりに貢献できる学校を目指します。



## ごあいさつ

名古屋大谷高等学校  
保護者会会長  
森野 栄健

学校法人尾張学園創立190周年、誠におめでとうございます。保護者会を代表いたしまして心よりお祝い申し上げます。この記念すべき年に在籍できることを大変光栄に感じております。

本校がここに創立190周年の節目を迎えることが出来ましたのも、理事長をはじめ歴代の校長先生また諸先生方のご指導と、地域の皆様、同窓会役員方、そして開校以来の卒業生の皆様が日ごろより学校を盛り立てていただいたからこそと存じます。

さて、現代の子どもたちを取り巻く環境は、国内外を問わずめまぐるしく変化しつつあります。在校生のみなさんは、先輩方が築いてこられた確固たる基盤を大切にしながら、そうした新しい時代の波に立ち向かう力を身につけて、来たる創立200周年に向けてしっかりと学び、歴史を積み重ねていかれる事を願っております。

結びに、これまで尾張学園にご尽力頂いた皆様に深く感謝申し上げ、今後ますますのご発展を祈念し、ごあいさつといたします。



## ごあいさつ

尾張学園名古屋大谷高等学校  
同窓会会長  
尾原 徳和



## ごあいさつ

豊田大谷高等学校  
保護者会会長  
森 茂樹

学校法人尾張学園創立190周年という記念すべき年を迎えられ、ここに記念パンフレットが発刊されますことは誠に意義深く、学校関係者の皆様、地域の方々、保護者の皆様と共に心からお喜び申し上げます。

尾張学園は江戸の文政10年に誕生し、明治・大正・昭和・平成と幾多の変遷を乗り越え、数々の歴史を築き上げてきました。

また、学園に学ぶ3年間は、宗祖 親鸞聖人のみ教えに基づく「建学の精神」のもと、「人としてどう生きるのか」を常に考え、自分の命と向き合う心を大切にし、教科書にはない「人としての生き方」を学ぶことが出来るのが大きな特色となっており、この教えは、人として社会に出たときにとても有意義なことだと思います。

ここに、学校法人尾張学園が創立190周年を迎えてましたことを、お祝い申しあげるとともに、この瞬間より190年の感謝が200年に繋がることを祈念いたします。

学校法人尾張学園は1827年(文政10年)真宗大谷派名古屋別院境内に「閑蔵長屋」として始まり2017年で190年を迎えた。それを機に法人事務局の協力を得て卒業生の資料を整理した。閑蔵長屋、講究所、尾張小教校、尾張教校、尾張国大谷派普通学校、尾張中学寮、真宗尾張中学校(大正10年には弟校である真宗専門学校(現同朋大学)が同境内に生まれた)、尾張中学校、尾張高等学校、名古屋大谷高等学校と校名変遷し、卒業生の進路は多彩で、宗門の発展に寄与された方、国立大学や師範学校へ進学され、政界の「田中善立」、経済界の「神野三郎」、歴史家の「津田左右吉」、教育界では尾張中学校長に就いた「一柳知成」をはじめ、足立学園創立者「足立闇勵」、初代桜花学園理事長「大谷賛雄」、石田学園創立者「石田鏡徳」、愛西学園創立者「飯田信治」等、県内私学界での活躍貢献があった。経済界では、中日本興業(株)「服部清」、愛知県警察音楽隊隊長として活躍された「佐々木千万亀」。近年は若い卒業生の活躍が顕著で、アルゼンチンでタンゴ歌手として活躍、日本国内でも多くのファンを魅了する「ロベルト杉浦」、「17ジュニアソロホルンコンクールで優勝した「宮崎継夢」、リオオリンピック・男子4×400mリレーの代表選手「田村朋也」、2018年開催のアジア競技大会・アーティスティックスイミングで銀メダル獲得の「吉田萌」の活躍が有り、今後も同窓生の活躍を期待、祈念するものである。(敬称略)



## ごあいさつ

豊田大谷高等学校  
同窓会会長  
高橋 利好

学校法人尾張学園創立190周年おめでとうございます。学園そのものが創立190周年を迎えた中で2019年私の母校である豊田大谷高等学校も開校35周年を迎えます。私が在学した時は、スイカ畑の中にある学校でしたが、今や周りは住宅街です。環境の変化だけではなく、昔は無かった全国レベルの部活動を始めとして、生徒が頑張れる学校だと感じています。大変しっかりと前を向いている生徒が多くなり、よく目が合うようになりました。そして、挨拶もしてくれます。学校を楽しんでいる生徒が多いなと感じたのです。

私の子どもは豊田大谷高等学校に在学しています。学校へ登校する子どもを見ていると、安心してお任せできる学校だと感じております。

「190年の感謝を、200年へつなぐ」がテーマではありますが、私としては、校名も未来へつないでほしいと思っています。豊田大谷、名古屋大谷と言えば多くの皆さん、「あの○○の高校ですね。」と言ってもらえるような、さらに魅力溢れる学校になれば、同窓生として、また保護者としても嬉しく思います。

豊田大谷開校40周年、そして尾張学園創立200周年に向けて、この想いをつなげていただくことをお願いして、挨拶と代えさせていただきます。